

⑫A 慢性期脳卒中患者の赤血球変形能に対する紅蔘末の影響



山口武典先生

国立循環器病センター

高野健太郎/原 齋/山口武典/尾前照雄

脳血管障害慢性期の麻痺肢における冷感、しびれ感を有する患者の赤血球変形能（以下ED）を測定し、コウジン末投与による影響を検討した。

〔対象〕脳卒中発症後1ヶ月以上を経過した慢性期の症例を対象とした。

〔方法〕患者検体が10cmH₂Oの陰圧下で、直径5μmの小径を有するマイクロフィルターを通過する時間を測定した。

〔結果〕麻痺肢に冷感、しびれ感を有する患者のヘマトクリット40%補正EDは、投与前10.9

±2.6sec、投与後8.1±1.4secと有意に改善した（P<0.05）。自覚症状の著明に改善したものの程、EDの改善率は大きかった。

〔考察〕昨年我々はコウジン末投与により麻痺肢と健肢の温度差が小さくなり、冷水負荷で患側の温度低下が緩やかになることから、これには麻痺肢での末梢血流の増加が関与している可能性を報告した。今回の成績から、この血流増加にはコウジン末による赤血球変形能の改善も、その一因として寄与していることが示唆された。